

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309	事業の開始年月日	2004年12月15日	
		指定年月日	2022年12月15日	
法人名	有限会社 サンヨー			
事業所名	グループホーム貞山みよりの家 ユニット名：海			
所在地	(〒 985-0832 ) 宮城県多賀城市大代3丁目7-72			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	2024年3月17日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心して暮らして頂けるように、健康管理に呈し、季節感を味わっていただくために、環境・食事に、工夫し利用者様に、満足頂けるよう努力している。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年3月27日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】 安心と安全で、思いやりのある穏やかな生活を支える。 ◎ほかに5項目からなる「方針」と、同じく5項目からなる「スタッフの心得」を定めている。</p> <p>【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等 母体法人である「有限会社サンヨー」は不動産・貸しビル業のほか、高齢者福祉事業を運営し、当グループホームと共用型デイサービスを運営している。事業所は産業道路沿いにあり、近くに貞山運河が流れているが、高台にあるため東日本大震災では浸水被害は無かった。また、鉄筋防火構造2階建て造りで、各階に食堂・リビング・風呂(各フロア2ヶ所づつ)・トイレ・9つの居室がある。玄関前のポーチは日差しにあふれ、入居者がお茶を飲みながらくつろぐ場となっている。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】 ①「安心・安全・穏やかな生活を支える」という理念が職員に浸透している。職員は「危ないと思ったらすぐに支援する」「自分の家で過ごすような穏やかな生活をしてほしい」と話している。 ②職員は管理者を信頼し、公私ともに相談できる関係を築いている。管理者は事業所開設時から20年の経験を有し、入居者との接し方、職員との向き合い方、介護保険制度の理解など深い知見のもとに事業所運営を行っている。 ③職員手作りの暖かい食事を提供している。採用時に調理を自分で行うことにプレッシャーを感じる職員もいるが、入居者からの「ありがとう、美味しかった」の声に「今度はどんな料理を作ろうかな」と前向きに考えるようになっていく。 ④夜勤専従の職員を採用している。家庭の事情等で夜勤が難しい職員にも働きやすい職場になっている。</p>
---

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホーム貞山みよりの家
ユニット名	海

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム貞山みよりの家）「ユニット名：海」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に目にふれる廊下、事務室、会議室等に掲示し、朝、夕の申し送りにも理念にふれ、職員のネームプレートの裏に理念を貼っており、常に意識しながら、個別ケアを大切に支援している。	事業所理念・方針・スタッフの心得は、2004年の事業所開設時から継続している。朝・夕の申し送り時や月1回のユニットミーティングで確認している。入居者の安心・安全を担保し、穏やかな生活が送れるようケアプランを作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過より感染防止のため、外部との交流の機会は減っているが、地域の一員として生活できるよう支援している。ホーム便りを地域の方々に配って活用している。	町内会に加入し、回覧板は入居者も閲覧できるように玄関に置いている。町内会に依頼して毎月発行している情報紙「貞山みよりの家便り」を地域内約54世帯に配布している。地域住民からは季節の野菜や花の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談対応等についての啓発に努めている。又、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、家族などへの情報共有として運営推進会議の資料を年6回分お配りしている。警察署からの情報、消防署からの火災発生に関して等の情報提供があり運営につなげている。	家族代表、町内会長、民生委員、地域包括職員、市職員、管理者をメンバーに、2023年度は年6回書面で開催した。2024年4月からは対面での開催を目指している。行政や町内会からは行事案内があり、事業所からは入居者の状況などを報告し、相互の情報交流を図っている。行政からの紹介で入居が決まったケースもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方へ運営推進会議の資料を提供したり外部評価に参加して頂き、事業所の状況を把握していただいている。又、ホーム便りを定期的に届けており、市から介護保険の情報提供され市との連携を図っている。	市には毎月「貞山みよりの家便り」を届けている。地域包括支援センターと共催で認知症カフェを開催し、恵方巻作りや笑いヨガ講座など多彩な企画を計画し取り組んでいたが、コロナ禍で休止となっている。地域住民からの要望もあり、早い機会での再開を目指している。市保護課職員とは、生活保護を受給している入居者との面談など協力し連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し職員の共有を図っている。玄関の施錠は無くいつでも出入りが可能な状態にし日々申し送り時等でもその日のケアを振り返り点検している。	身体拘束適正化のための指針を策定し、管理者・ケアマネジャー・ユニットリーダー2名をメンバーとして、年4回委員会を開催している。ユニットミーティング時に年3回研修を実施し、身体拘束に係る理解促進に努めている。玄関の施錠は21時から6時までであるが、不審者侵入の懸念もあり施錠時間について運営推進会議で検討する予定である。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。	毎月のユニットミーティングで虐待防止について課題を話し合い、解決に繋げている。スピーチロックなどの不適切なケアに気づいたときは、その場ですぐに伝えている。職員アンケートを実施し、職員がストレスを抱え込まないように取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、成年後見制度、地域福祉権利擁護事業について学び、職員が理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し、事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用料金、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の会話やクリスマス会に合わせて年1回家族会を行い、家族の意見や要望を聞くようにしている。家族の意見や要望は職員間で共有し、運営に活かしている。又、第三者委員の設置もしている。	年1回、家族との面会をコロナ等感染症対策のため休止したが、コロナ感染症が5類に移行し、状況を確認しながら玄関フロアで短時間での対面面会を再開している。家族が来訪した際は「何か質問はありませんか？」と必ず問いかけている。家族からは「ご飯ちゃんと食べてますか？」など、入居者の日常に関する質問が多く出されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会を月1回行い、意見を聞くようにしている。又、日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、昼食時、休暇時に問いかけたり、聞き出したりしている。	毎月のユニットミーティングのほか、給食・環境・車両・レクリエーションの各専門委員会を設け、職員から意見を聞きサービスの向上に活かしている。入居者と一緒に食事をとれない時期があったが、職員と話し合い「入居者の介助をしながら職員も一緒に食事をする」今のスタイルに変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、経営者に現場の情報をしっかり伝えている。職員が落ち着いて働けるように環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた内容の研修に参加できるよう心掛けている。又、研修会の資料を全職員に配布したりミーティング等で研修内容を報告する機会を作っています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議に出席し連携を図ったり、研修会に出席し質の向上に励んでいる。	宮城県認知症グループホーム協議会に加入し、研修に参加した際は他事業所の職員と情報交流している。行政主催の会議では、コロナ感染症の対応や介護保険制度の改正について他事業所と情報交換している。東日本大震災時には事業所間でスタッフの派遣協力や備蓄品の融通などを行った実績があり、災害対応での連携が築かれてる。	
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、サービスの利用についての相談があった時は必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施 うい職員の共有を図っている。玄関の施錠は 無くいつでも出入りが可能な状態にし日々申 し送り時等でもその日のケアを振り返り点検 している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支援 を見極め、他のサービス利用も含めた対応に 努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り、 柔軟な対応を行う。本人や家族の思い状況等 を確認し、改善に向けた支援と信頼関係を築 きながら、サービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置 かず、暮らしを共にする者同士の関係を築い ている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員 が共有しており、本人の不安、喜びを知るこ とに努め、暮らしの中で分かち合い共に支え る関係作りに留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置 かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共 に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の 暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、 本人と一緒に支えるために家族と同じような 思いで支援していることを伝えている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に努 めている	家族、友人などの訪問時は部屋でお茶を飲み ながらゆっくり過ごせるように支援してい る。お正月、お盆に帰省したり、美容院や投 票への外出支援も行っており、継続的な交流 ができるよう働きかけている。	コロナ等感染症予防対策のため、家族との 面会も制限し、友人・知人など馴染みの人 の来訪もなかった。現在は状況を確認しな がら、家族との外出・外泊を可能にし、墓 参りやお昼を食べに出かける入居者もい る。馴染みの美容院に行く人以外は、2ヶ月 に1度の訪問理容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みん なで楽しく過ごす時間や気の合う同士で過 せる場面作りをする等、利用者同士の関係が うまくいくように職員が調整役となって支援 している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応じ て本人・家族の経過をフォローし、相談や支 援に努めている	サービスの利用が終了された方にも電話で状 況を伺ったり、又、遊びに来て頂けるよう に声掛けをし、継続的な付き合いが出来るよう 心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の性格や趣味などを把握し、会話から思いや要望を聞き、ミーティングや申し送りでも共有している。以前、お茶の先生だった利用者にはお茶会での役割、話し上手な方には挨拶担当していただく等、満足感が得られるよう支援している。	入居者の生活歴や職歴・趣味などを入居時に聞き取り、参考にしながら思いや意向を把握するように努めている。認知症カフェを開催していた頃は、入居者の得意分野を引き出しながら、司会を依頼したり、抹茶をたててもらったりしていた。思いを伝えられない入居者には、選択枠を設けたり思いを代弁して問いかけるなど、工夫しながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問したり、ご本人や家族、関係者等から聞き取るようにしている。利用後もご本人、家族にどんな生活をしていたのか機会がある毎に聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、家族、職員の意見を反映された介護計画を作成し、定期的にあセスメント、モニタリングを行っている。状況が安定していても家族には電話や口答で確認している。	入居者の状態に配慮して、3ヶ月あるいは半年に1回、介護計画の見直しや更新を行っている。介護計画は医師や家族の意見も参考に、ユニットミーティングで日常のケアを振り返り、問題点などを挙げ話し合い、介護計画を作成している。家族には面会時、あるいは郵送をして同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等、身体的状況、及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認出来るようにしており、勤務前の確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能を活かして自宅で暮らす認知症対応のデイサービスを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられるように町内会長、民生委員、警察の方を運営推進会議に出席して頂き、交流連携を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を受診し、基本的には家族が付き添い、報告を受け、医療関連記録に記入する。又、家族の状況に応じて通院や送迎等に必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるように努力している。	入居者は希望のかかりつけ医を受診している。家族付き添いが基本ではあるが、必要に応じて職員が同行している。月1回、訪問歯科医が口腔ケアを行っている。非常勤職員の看護師を配置し、入居者の健康管理を行い、職員からの相談にも応じている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員は情報共有するようにしている。又、家族とも、情報交換しながら回復状況等、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に看取りに関するホームの方針を説明している。看護師が利用者の健康管理を行い、緊急時の対応について事例を基に学習会を開催し職員間で共有している。	「看取りに関する指針」を作成しているが、医師の往診対応などの都合上、看取りは行っていない。食事が口から摂れなくなり医師が終末期と判断した際、家族と話し合い、事業所でできることを説明し、医療機関への入院や他施設と連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の様態の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備してある。又、年間の所内研修計画に入れ研修を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消防署への通報、消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。災害時における福祉避難所にもなっている。	火災・風水害・地震対応マニュアルを作成している。避難訓練は年6回、うち2回は夜間想定で実施し、設備点検は年2回業者が行っている。災害時の福祉避難所になっている。2023年度は地域住民の参加を自粛していた。備蓄は10日分を事業所内に確保し、おにぎりを冷凍してローリングストックとして活用している。感染症予防対策として現在も引き続き、消毒及び職員の検温を徹底している。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシー保護について事例を基に学習している。利用者はお客様であり、人生の先輩として尊重し、言葉遣いや接し方に配慮している。呼び名は希望に添って、名字、名前、さん付けで呼んでいる。	「接遇・プライバシー保護」に関する研修を行い、入居者を尊重する接し方について理解を深めている。排泄介助は、周囲に気づかれないよう配慮し、そっとトイレに誘導するように努めている。呼びかけ方は希望を聞き、「さん」付けが多いが、馴染みの呼び方を継続し愛称で呼んでいる人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛け、意思表示が困難な方には表情で読み取ったりし、些細なことでも自分で決めるところが出来るような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はせずに一人ひとりの体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個別制のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の生活習慣に合わせ支援をし、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。行きつけの美容院で希望に合わせたカットや毛染めを継続して頂くように連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と職員と一緒に考え、食事と一緒に食べるようにしている。トロミ食やミキサー食、手作りの行事食など利用者の状況に合わせて支援している。	入居者の希望を聞きながら、職員が交代で献立を作り、調理している。食材は地元の店で購入し、事業所で育てた野菜や入居者の家族から差し入れされた旬の野菜をみんなで楽しんでいる。職員は入居者の状態を確認し、介助や見守りしながら一緒に食事をしている。誕生会は入居者のリクエストに応えたメニューや、行事食では旬の食材を提供している。リクエストが多い刺身は、職員が塩釜市場で購入している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。食事内容を写真や処理に記録、個別の残食等も記録して、栄養摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が事業所の研修で理解し毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、利用者の表情や様子をみてトイレ誘導している。便秘の方に腹部マッサージを行い、食材を工夫し支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。昼間は尿取りパッド、夜間は睡眠を重視し紙おむつなど、状態や状況によって使い分け、入居者が最も快適に過ごせるように取り組んでいる。便秘対策として乳製品を摂り入れたり、朝には白湯を飲むようにしている。医師からの処方薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質が多い食材や乳製品を取り入れている。身体を動かすレクリエーション等を取り入れ、自然排便できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大浴場は基本的に月・金、個浴はいつでも入れるようにしている。入浴時間は午前9時～午後7時まで支援している。	各ユニットにそれぞれ2つの風呂がある。1つは大浴場で、月曜日と金曜日の週2回の入浴が可能で、他の個浴はいつでも入れるよう支援している。大浴場では職員2人で介助し、希望があれば一度に3人までの入浴が可能である。希望する入居者には同性介助で対応し、拒否のある人には無理強いせず、翌日個浴で対応するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。又、一人ひとりの体調や表情、希望を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬出来ているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアの飾りつけや家具の配置は利用者と一緒に考え季節に応じた飾りつけを心掛けている。又、毎月写真を撮り、月ごとに張り替えて、家族の方にもホームの状況を知ってもらえるように心掛けている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関ホール、階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等を置き、絵画や花等で装飾し居心地の良さに配慮している。	コロナ等感染症の状況を確認し、2024年度は年間計画に基づき、定義如来や松島などに出かける予定である。外出先の店で買い物を楽しむこともある。暖かい季節には、玄関前のポーチに椅子とテーブルを置いて、みんなでお茶を楽しんでいる。外の空気に触れ、景色を眺めているだけでも入居者の表情は和んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	写真、使い慣れた日用品を居室に持ち込んでいただき、利用者が不安なく生活が出来るように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ廊下等の居室環境が適しているかを見直し、安全確保を保ち自立への配慮をしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具の配置は利用者と一緒に考え季節に応じた飾りつけを心掛けている。又、毎月写真を撮り、月ごとに張り替えて、家族の方にもホームの状況を知ってもらえるように心掛けている。	季節の花や装飾品などが飾られたリビング・ダイニングは居心地が良く、見当識に配慮して見やすい時計やカレンダーを配置してある。みんなと一緒にゲームを楽しんだり、新聞を読んだり好きなことをしながら、ほとんどの時間をリビングで過ごす入居者が多い。エアコンと加湿器を設置し、温・湿度管理は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等を置き、絵画や花等で装飾し居心地の良さに配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、使い慣れた日用品を居室に持ち込んでいただき、利用者が不安なく生活が出来るように配慮している。	エアコン・クローゼット・洗面台が備え付けられており、ベッドは多くの入居者がレンタルしている。入居者は、ぬいぐるみや家族写真・仏壇などを持ち込み、自分の家のような落ち着ける空間を作っている。職員が毎日掃除機とモップ掛けをし、洗面台も磨くなど居室はいつも清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ廊下等の居室環境が適しているかを見直し、安全確保を保ち自立への配慮をしている。		

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309	事業の開始年月日	2004年12月15日	
		指定年月日	2022年12月15日	
法人名	有限会社 サンヨー			
事業所名	グループホーム貞山みよりの家 ユニット名：空			
所在地	(〒 985-0832 ) 宮城県多賀城市大代3丁目7-72			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	2023年3月17日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心して暮らして頂けるように、健康管理に呈し、季節感を味わっていただくために、環境・食事に、工夫し利用者様に、満足頂けるよう努力している。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2024年3月27日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の理念】

安心と安全で、思いやりのある穏やかな生活を支える。

◎ほかに5項目からなる「方針」と、同じく5項目からなる「スタッフの心得」を定めている。

## 【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人である「有限会社サンヨー」は不動産・貸しビル業のほか、高齢者福祉事業を運営し、当グループホームと共用型デイサービスを運営している。事業所は産業道路沿いにあり、近くに貞山運河が流れているが、高台にあるため東日本大震災では浸水被害は無かった。また、鉄筋防火構造2階建て造りで、各階に食堂・リビング・風呂(各フロア2ヶ所づつ)・トイレ・9つの居室がある。玄関前のポーチは日差しにあふれ、入居者がお茶を飲みながらくつろぐ場となっている。

## 【事業所の優れている点・工夫点】

- ①「安心・安全・穏やかな生活を支える」という理念が職員に浸透している。職員は「危ないと思ったらすぐに支援する」「自分の家で過ごすような穏やかな生活をしてほしい」と話している。
- ②職員は管理者を信頼し、公私ともに相談できる関係を築いている。管理者は事業所開設時から20年の経験を有し、入居者との接し方、職員との向き合い方、介護保険制度の理解など深い知見のもとに事業所運営を行っている。
- ③職員手作りの暖かい食事を提供している。採用時に調理を自分で行うことにプレッシャーを感じる職員もいるが、入居者からの「ありがとう、美味しかった」の声に「今度はどんな料理を作ろうかな」と前向きに考えるようになっていく。
- ④夜勤専従の職員を採用している。家庭の事情等で夜勤が難しい職員にも働きやすい職場になっている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホーム貞山みよりの家
ユニット名	空

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム貞山みよりの家）「ユニット名：空」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に目にふれる廊下、事務室、会議室等に掲示し、朝、夕の申し送りにも理念にふれ、職員のネームプレートの裏に理念を貼っており、常に意識しながら、個別ケアを大切に支援している。	事業所理念・方針・スタッフの心得は、2004年の事業所開設時から継続している。朝・夕の申し送り時や月1回のユニットミーティングで確認している。入居者の安心・安全を担保し、穏やかな生活が送れるようケアプランを作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過より感染防止のため、外部との交流の機会は減っているが、地域の一員として生活できるよう支援している。ホーム便りを地域の方々に配って活用している。	町内会に加入し、回覧板は入居者も閲覧できるように玄関に置いている。町内会に依頼して毎月発行している情報紙「貞山みよりの家便り」を地域内約54世帯に配布している。地域住民からは季節の野菜や花の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての相談対応等についての啓発に努めている。又、人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員、家族などへの情報共有として運営推進会議の資料を年6回分お配りしている。警察署からの情報、消防署からの火災発生に関して等の情報提供があり運営につなげている。	家族代表、町内会長、民生委員、地域包括職員、市職員、管理者をメンバーに、2023年度は年6回書面で開催した。2024年4月からは対面での開催を目指している。行政や町内会からは行事案内があり、事業所からは入居者の状況などを報告し、相互の情報交流を図っている。行政からの紹介で入居が決まったケースもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方へ運営推進会議の資料を提供したり外部評価に参加して頂き、事業所の状況を把握していただいている。又、ホーム便りを定期的に届けており、市から介護保険の情報が提供され市との連携を図っている。	市には毎月「貞山みよりの家便り」を届けている。地域包括支援センターと共催で認知症カフェを開催し、恵方巻作りや笑いヨガ講座など多彩な企画を計画し取り組んでいたが、コロナ禍で休止となっている。地域住民からの要望もあり、早い機会での再開を目指している。市保護課職員とは、生活保護を受給している入居者との面談など協力し連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し職員の共有を図っている。玄関の施錠は無くいつでも出入りが可能な状態にし日々申し送り時等でもその日のケアを振り返り点検している。	身体拘束適正化のための指針を策定し、管理者・ケアマネジャー・ユニットリーダー2名をメンバーとして、年4回委員会を開催している。ユニットミーティング時に年3回研修を実施し、身体拘束に係る理解促進に努めている。玄関の施錠は21時から6時までであるが、不審者侵入の懸念もあり施錠時間について運営推進会議で検討する予定である。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。	毎月のユニットミーティングで虐待防止について課題を話し合い、解決に繋げている。スピーチロックなどの不適切なケアに気づいたときは、その場ですぐに伝えている。職員アンケートを実施し、職員がストレスを抱え込まないように取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、成年後見制度、地域福祉権利擁護事業について学び、職員が理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し、事業所のケアに関する考え方や取り組み、利用料金、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の会話やクリスマス会に合わせて年1回家族会を行い、家族の意見や要望を聞くようにしている。家族の意見や要望は職員間で共有し、運営に活かしている。又、第三者委員の設置もしている。	年1回、家族との面会をコロナ等感染症対策のため休止したが、コロナ感染症が5類に移行し、状況を確認しながら玄関フロアで短時間での対面面会を再開している。家族が来訪した際は「何か質問はありませんか？」と必ず問いかけている。家族からは「ご飯ちゃんと食べてますか？」など、入居者の日常に関する質問が多く出されている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会を月1回行い、意見を聞くようにしている。又、日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、昼食時、休暇時に問いかけたり、聞き出したりしている。	毎月のユニットミーティングのほか、給食・環境・車両・レクリエーションの各専門委員会を設け、職員から意見を聞きサービスの向上に活かしている。入居者と一緒に食事をとれない時期があったが、職員と話し合い「入居者の介助をしながら職員も一緒に食事をする」今のスタイルに変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、経営者に現場の情報をしっかり伝えていく。職員が落ち着いて働けるよう環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた内容の研修に参加できるよう心掛けている。又、研修会の資料を全職員に配布したりミーティング等で研修内容を報告する機会を作っています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議に出席し連携を図ったり、研修会に出席し質の向上に励んでいる。	宮城県認知症グループホーム協議会に加入し、研修に参加した際は他事業所の職員と情報交流している。行政主催の会議では、コロナ感染症の対応や介護保険制度の改正について他事業所と情報交換している。東日本大震災時には事業所間でスタッフの派遣協力や備蓄品の融通などを行った実績があり、災害対応での連携が築かれてる。	
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するように努め、サービスの利用についての相談があった時は必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施 うい職員の共有を図っている。玄関の施錠は 無くいつでも出入りが可能な状態にし日々申 し送り時等でもその日のケアを振り返り点検 している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支援 を見極め、他のサービス利用も含めた対応に 努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り、 柔軟な対応を行う。本人や家族の思い状況等 を確認し、改善に向けた支援と信頼関係を築 きながら、サービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置 かず、暮らしを共にする者同士の関係を築い ている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員 が共有しており、本人の不安、喜びを知るこ とに努め、暮らしの中で分かち合い共に支え る関係作りに留意している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置 かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共 に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の 暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、 本人と一緒に支えるために家族と同じような 思いで支援していることを伝えている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に努 めている	家族、友人などの訪問時は部屋でお茶を飲み ながらゆっくり過ごせるように支援してい る。お正月、お盆に帰省したり、美容院や投 票への外出支援も行っており、継続的な交流 ができるよう働きかけている。	コロナ等感染症予防対策のため、家族との 面会も制限し、友人・知人など馴染みの人 の来訪もなかった。現在は状況を確認しな がら、家族との外出・外泊を可能にし、墓 参りやお昼を食べに出かける入居者もい る。馴染みの美容院に行く人以外は、2ヶ月 に1度の訪問理容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが 孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、みん なで楽しく過ごす時間や気の合う同士で過 ごせる場面作りをする等、利用者同士の関係が うまくいくように職員が調整役となって支援 している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これ までの関係性を大切にしながら、必要に応じて 本人・家族の経過をフォローし、相談や支 援に努めている	サービスの利用が終了された方にも電話で状 況を伺ったり、又、遊びに来て頂けるよう に声掛けをし、継続的な付き合いが出来るよう 心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の性格や趣味などを把握し、会話から思いや要望を聞き、ミーティングや申し送りでも共有している。以前、お茶の先生だった利用者にはお茶会での役割、話し上手な方には挨拶担当していただく等、満足感が得られるよう支援している。	入居者の生活歴や職歴・趣味などを入居時に聞き取り、参考にしながら思いや意向を把握するように努めている。認知症カフェを開催していた頃は、入居者の得意分野を引き出しながら、司会を依頼したり、抹茶をたててもらったりしていた。思いを伝えられない入居者には、選択枠を設けたり思いを代弁して問いかけるなど、工夫しながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問したり、ご本人や家族、関係者等から聞き取るようにしている。利用後もご本人、家族にどんな生活をしていたのか機会がある毎に聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、家族、職員の意見を反映された介護計画を作成し、定期的にあセスメント、モニタリングを行っている。状況が安定していても家族には電話や口答で確認している。	入居者の状態に配慮して、3ヶ月あるいは半年に1回、介護計画の見直しや更新を行っている。介護計画は医師や家族の意見も参考に、ユニットミーティングで日常のケアを振り返り、問題点などを挙げ話し合い、介護計画を作成している。家族には面会時、あるいは郵送をして同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等、身体的状況、及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認出来るようにしており、勤務前の確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能を活かして自宅で暮らす認知症対応のデイサービスを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられるように町内会長、民生委員、警察の方を運営推進会議に出席して頂き、交流連携を行っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を受診し、基本的には家族が付き添い、報告を受け、医療関連記録に記入する。又、家族の状況に応じて通院や送迎等に必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高めるように努力している。	入居者は希望のかかりつけ医を受診している。家族付き添いが基本ではあるが、必要に応じて職員が同行している。月1回、訪問歯科医が口腔ケアを行っている。非常勤職員の看護師を配置し、入居者の健康管理を行い、職員からの相談にも応じている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻りに職員は情報共有するようにしている。又、家族とも、情報交換しながら回復状況等、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に看取りに関するホームの方針を説明している。看護師が利用者の健康管理を行い、緊急時の対応について事例を基に学習会を開催し職員間で共有している。	「看取りに関する指針」を作成しているが、医師の往診対応などの都合上、看取りは行っていない。食事が口から摂れなくなり医師が終末期と判断した際、家族と話し合い、事業所でできることを説明し、医療機関への入院や他施設と連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の様態の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備してある。又、年間の所内研修計画に入れ研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て、避難訓練、避難経路の確認、消防署への通報、消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。災害時における福祉避難所にもなっている。	火災・風水害・地震対応マニュアルを作成している。避難訓練は年6回、うち2回は夜間想定で実施し、設備点検は年2回業者が行っている。災害時の福祉避難所になっている。2023年度は地域住民の参加を自粛していた。備蓄は10日分を事業所内に確保し、おにぎりを冷凍してローリングストックとして活用している。感染症予防対策として現在も引き続き、消毒及び職員の検温を徹底している。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシー保護について事例を基に学習している。利用者はお客様であり、人生の先輩として尊重し、言葉遣いや接し方に配慮している。呼び名は希望に添って、名字、名前、さん付けで呼んでいる。	「接遇・プライバシー保護」に関する研修を行い、入居者を尊重する接し方について理解を深めている。排泄介助は、周囲に気づかれないよう配慮し、そっとトイレに誘導するように努めている。呼びかけ方は希望を聞き、「さん」付けが多いが、馴染みの呼び方を継続し愛称で呼んでいる人もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛け、意思表示が困難な方には表情で読み取ったりし、些細なことでも自分で決めるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はせずに一人ひとりの体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、出来るだけ個別制のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別の生活習慣に合わせ支援をし、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。行きつけの美容院で希望に合わせたカットや毛染めを継続して頂くように連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と職員と一緒に考え、食事と一緒に食べるようにしている。トロミ食やミキサー食、手作りの行事食など利用者の状況に合わせて支援している。	入居者の希望を聞きながら、職員が交代で献立を作り、調理している。食材は地元の店で購入し、事業所で育てた野菜や入居者の家族から差し入れされた旬の野菜をみんなで楽しんでいる。職員は入居者の状態を確認し、介助や見守りしながら一緒に食事をしている。誕生会は入居者のリクエストに応えたメニューや、行事食では旬の食材を提供している。リクエストが多い刺身は、職員が塩釜市場で購入している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。食事内容を写真や処理に記録、個別の残食等も記録して、栄養摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が事業所の研修で理解し毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、利用者の表情や様子をみてトイレ誘導している。便秘の方に腹部マッサージを行い、食材を工夫し支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。昼間は尿取りパッド、夜間は睡眠を重視し紙おむつなど、状態や状況によって使い分け、入居者が最も快適に過ごせるように取り組んでいる。便秘対策として乳製品を摂り入れたり、朝には白湯を飲むようにしている。医師からの処方薬を服用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質が多い食材や乳製品を取り入れている。身体を動かすレクリエーション等を取り入れ、自然排便できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	大浴場は基本的に月・金、個浴はいつでも入れるようにしている。入浴時間は午前9時～午後7時まで支援している。	各ユニットにそれぞれ2つの風呂がある。1つは大浴場で、月曜日と金曜日の週2回の入浴が可能で、他の個浴はいつでも入れるよう支援している。大浴場では職員2人で介助し、希望があれば一度に3人までの入浴が可能である。希望する入居者には同性介助で対応し、拒否のある人には無理強いせず、翌日個浴で対応するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。又、一人ひとりの体調や表情、希望を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握出来るようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬出来ているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアの飾りつけや家具の配置は利用者と一緒に考え季節に応じた飾りつけを心掛けている。又、毎月写真を撮り、月ごとに張り替えて、家族の方にもホームの状況を知ってもらえるように心掛けている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関ホール、階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等を置き、絵画や花等で装飾し居心地の良さに配慮している。	コロナ等感染症の状況を確認し、2024年度は年間計画に基づき、定義如来や松島などに出かける予定である。外出先の店で買い物を楽しむこともある。暖かい季節には、玄関前のポーチに椅子とテーブルを置いて、みんなでお茶を楽しんでいる。外の空気に触れ、景色を眺めているだけでも入居者の表情は和んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	写真、使い慣れた日用品を居室に持ち込んでいただき、利用者が不安なく生活が出来るように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ廊下等の居室環境が適しているかを見直し、安全確保を保ち自立への配慮をしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具の配置は利用者と一緒に考え季節に応じた飾りつけを心掛けている。又、毎月写真を撮り、月ごとに張り替えて、家族の方にもホームの状況を知ってもらえるように心掛けている。	季節の花や装飾品などが飾られたリビング・ダイニングは居心地が良く、見当識に配慮して見やすい時計やカレンダーを配置してある。みんなと一緒にゲームを楽しんだり、新聞を読んだり好きなことをしながら、ほとんどの時間をリビングで過ごす入居者が多い。エアコンと加湿器を設置し、温・湿度管理は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等を置き、絵画や花等で装飾し居心地の良さに配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真、使い慣れた日用品を居室に持ち込んでいただき、利用者が不安なく生活が出来るように配慮している。	エアコン・クローゼット・洗面台が備え付けられており、ベッドは多くの入居者がレンタルしている。入居者は、ぬいぐるみや家族写真・仏壇などを持ち込み、自分の家のような落ち着ける空間を作っている。職員が毎日掃除機とモップ掛けをし、洗面台も磨くなど居室はいつも清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ廊下等の居室環境が適しているかを見直し、安全確保を保ち自立への配慮をしている。		